

第3回 那須塩原駅周辺まちづくりグランドデザイン会議 会議要旨

○日時 令和7(2025)年3月26日(水) 10:30～12:30

○場所 北山創造研究所(東京都港区南麻布3-2-3 ハウス仙台坂上 2F)

○出席者

【ボードメンバー】※敬称略、五十音順。

新井良亮、石井剛史、金指潔、北山孝雄、丹下慎也(リモート)、涌井史郎(座長)

【那須塩原市】渡辺市長、藤田副市長ほか

○次第

1. 開会
2. 座長挨拶
3. ボードメンバーより一言
4. 内容(非公開)
 - (1) グランドデザイン会議のこれまでの振り返りについて
 - (2) 社会実験・モデルイベント「D'harvest Walk Fest」について
 - (3) 那須塩原駅周辺まちづくり協議体の検討状況について
 - (4) 新庁舎の進捗状況について
 - (5) 民間事業の動きについて
5. 座長総括・閉会

※内容の各項目に対し、適宜意見交換を実施。

○会議要旨

1. 開会
2. 座長挨拶
3. ボードメンバーより一言
各ボードメンバーから、社会実験の成果や、今後の駅前整備・インバウンド誘致への期待等について挨拶が行われた。
4. 内容(進行: 涌井座長)
 - (1)から(5)まで、それぞれ資料に基づき事務局より説明を行った後、意見交換を実施した。
 - (1) グランドデザイン会議のこれまでの振り返りについて
 - (2) 社会実験・モデルイベント「D'harvest Walk Fest」について
 - (3) 那須塩原駅周辺まちづくり協議体の検討状況について
 - (4) 新庁舎の進捗状況について
 - (5) 民間事業の動きについて

＜意見交換におけるボードメンバーの主な意見＞

- 社会実験によって駅前に人が集まることが分かった。何かしらの居場所がある状態を作り、そこがメディアとなって情報を発信・収集できるような拠点になってほしい。
- 新庁舎の整備について、多額の費用をかけるため、現庁舎との来庁者数の比較を行うなど、多くの市民に利用されていることを理解してもらう必要がある。また、市がどのように維持管理していくかが重要である。
- 地方における活気創出のため、駅前整備の中にインバウンドの切り口や観点を取り入れていくべきである。
- 地域のブランディングが重要であり、市民が誇れるまちづくりを進めるとともに、国内外の競争力に耐えうる地域であり続けられるかという視点が必要である。
- 駅周辺への投資をどのように回収するのか、建設後のビジネスと結びつける視点が大切である。
- 都市公園が散らばっている現状に対し、土地交換の種地にするなど、もっと流動的な都市計画の見直しや仕組みづくりを急ぐべきではないか。

5. 座長総括・閉会

地域のブランディングや、市民が誇れるまちづくりを進めていくことが非常に大切であると総括された。

文責：那須塩原駅周辺整備室